

緑区桃山学区

防災マップ

～みんなの助け合いで地域を守ろう～

この桃山学区防災マップは大規模な災害に備えて、自分の身を守るための活動や町内会による助け合いの防災活動をするとときに参考となる情報を記載しています。自分や家族で災害への備えを考えると、ご近所や町内会で話し合うときに活用してください。

被害が発生するおそれがあり、急いで避難することが必要な場合！

指定緊急避難場所

洪水・内水氾濫、土砂災害、大規模な火事などの、目前に迫った危険から命を守るための場所です。

災害種別	洪水・内水氾濫	土砂災害	地震の揺れ	大規模な火事
指定緊急避難場所	○	○	○	○
桃山小学校	○	○	○	○
神沢中学校	○	○	○	○
桃山コミュニティセンター	○	○	○	○

避難勧告などによらず、自主的に避難しようとする場合には、事前に区役所へ連絡し、避難先などの確認を受けてください。
 緑区役所総務課
 TEL621-2111 (代表)
 TEL625-3903～6 (ダイヤルイン)
 FAX623-8191

災害のおそれなくなったが、自宅が被災して帰宅できない場合！

指定避難所

火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、一定期間、避難生活を送るためのところです。

桃山小学校 (TEL876-7811、収容人数301人)
 神沢中学校 (TEL876-0830、収容人数610人)
 桃山コミュニティセンター (TEL877-6722、収容人数57人)

【重要】指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅で避難生活を送れるように、家具の固定と、7日分の備蓄を進めましょう。

火災延焼の危険性

延焼クラスター (クラスター内の建物棟数)

- 100棟未満
- 100～500棟未満
- 500～1,000棟未満
- 1,000～2,500棟未満

図面の見方

・建物構造、規模に応じて、延焼範囲の異なる建物群 (延焼クラスター) 内の建物棟数を色分けして明示しています。
 ・延焼クラスター内の建物棟数が多い (桃色) ほど、燃え広がる可能性の範囲が広く、その発生危険度も高くなります。
 ・色が無い地区でも、単体の火災の発生や100棟未満の火災延焼の発生可能性があります。
 ※詳細は、本市「震災に強いまちづくり方針」の解説 (P.107) を参照ください。

気を付けて! (地震編)

1. 空き家
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。
2. 古い(高い)ブロック塀
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ離れる。近づかない。
3. 狭い道
近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。
4. 電線
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。
5. 瓦屋根
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

気を付けて! (風水害編)

1. マンホール・側溝
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けて避難する。
2. アンダーパス、よく冠水・浸水する場所
覆り下け式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

医療救護所

(神沢中学校)

市から要請を受けた場合や震度5以上の地震が起きた場合に、名古屋市医師会の協力により中学校に開設され、トリアージ (※) や応急措置が行われます。
 ※多くの負傷者が発生した場合に、治療の必要性・緊急性に応じて適切な処置や搬送を行うために、治療の優先順位を決めること。

凡例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 給水栓
- 鉄塔
- 防災倉庫
- 町内会・自治会界
- 下水道直結式仮設トイレ設置場所
- AED設置箇所
- 災害応急用 (協力) 井戸
- 送電線
- バス停
- 町内会・自治会名

【役に立つ場所】

地域防災協力事業所	災害時に地域に対して支援協力してくれる事業所です。 桃山の湯：一時的な避難場所の提供、避難者への支援
公衆電話	NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。
【その他】	・病院、薬局などの医療機関 ・スーパーマーケット、コンビニなどの商業施設

緑区

桃山学区

世帯：4,017 世帯

人口：9,595 人

面積：0.921 km²

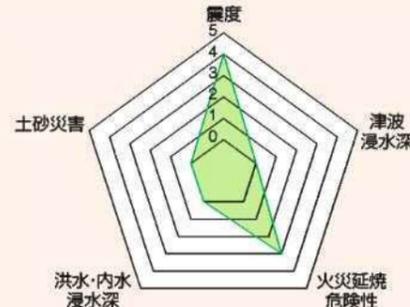
(令和2年1月1日現在推計人口より)

私たちのまち桃山学区では、南海トラフ巨大地震が発生した場合には震度6弱から震度6強の激しい揺れが想定されており、家屋の倒壊や損壊、火災の発生、ライフラインの途絶などにより地域が大混乱に陥るおそれがあります。

大規模な災害が発生した時、自分や家族の力に加えて、隣近所や町内会、学区などの地域コミュニティで助け合う、地域防災の力がとても大切です。普段から災害情報に気を付け、町内会の防災訓練に参加するなどして、「その時」に備えましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	500~1,000棟未満	3
洪水・内水浸水深	0m	0
土砂災害	警戒区域なし	0



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。

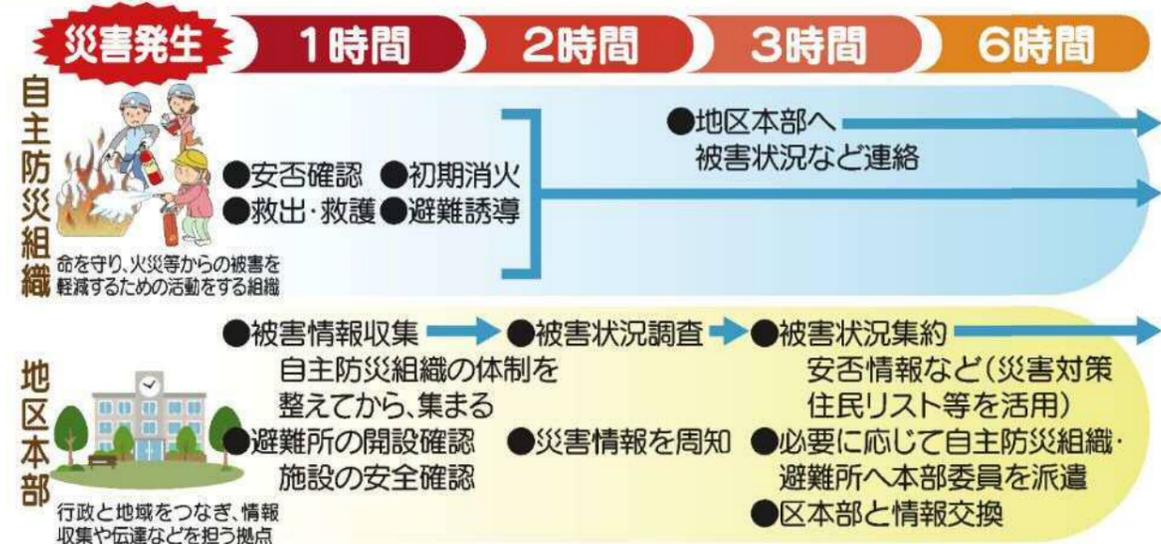
名古屋市 地区防災カルテ 検索



発災直後の地域の活動（イメージ）

（町内会）

（学区）



地震時の行動（津波浸水想定区域外）

揺れた!!

揺れがおさまった!!

災害の危険解消
自宅での滞在が可能か

避難先へ
在宅避難

緊急避難が必要な場合は、避難!

身の安全の確保

- 頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- 安全に消せる場合は火を消す
- 家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



自宅の耐震化や家具転倒防止対策を進めておきましょう。

火の元の確認、出火したら初期消火

- 怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
- 家族の安否・家屋の被害状況の確認
- テレビ・ラジオ・スマホなどから正しい情報の入手
- 非常持出品の準備

町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救護等を行う自主防災組織の活動にご協力をお願いします。

◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!

避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。



●高齢者や障害者などの避難誘導を

在宅避難している高齢者や障害者などへの声掛け

●原則、徒歩で避難

いざという時に備えよう!

①家族で防災について話し合おう!

自宅やその周辺の危険箇所のチェック、避難場所や家族間の連絡方法などを確認しよう。

②家具の転倒防止対策をしよう!

家具の固定、レイアウトの工夫、倒れにくい家具への変更などを進めましょう。

③非常持出品を用意しよう!

一時的に屋外に逃れるときの持ち物を準備しましょう。

④備蓄をしよう!

水や食料、薬などを7日分程度備えましょう。

⑤訓練に参加しよう!

毎年6月の学区防災訓練に参加して、知識や地域との連携を深めましょう。

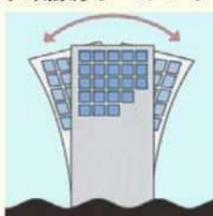
家族全員で防災訓練に参加しよう!!



集合住宅での防災・減災

集合住宅は耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等集合住宅特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

(例) 出典：気象庁ホームページ



3階

2階

1階

逆流

下水管

詰まり



ビニール袋を活用した簡易トイレの例

●高層建築物は、長周期地震動と共振して長時間、大きく揺れる。

(家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「ここだけは安全!」という場所をつくる)

●配水管が安全確認できるまでできるだけ水を使わない。

(下階における汚水の逆流防止。簡易トイレ(便袋)などを活用)



●地域コミュニティとの良好な関係 (日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある)

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

①ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!



②近所への声かけ!



③高齢者や障害者などの避難誘導を!



④原則徒歩で! (渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない)



⑤木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて!



<家具転倒ボランティア派遣事業>

ご自分で家具の転倒防止対策を行うことが困難な世帯を対象に、家具転倒防止ボランティアを派遣しています。詳しくは区役所・消防署にお問い合わせいただくか、ウェブサイトをご確認ください。

- 緑区役所総務課 TEL 625-3906
- 緑消防署総務課 TEL 896-0119

緑区 家具転倒防止 ボランティア

検索

桃山防災宣言

- 災害のとき 自分の身を守るための備えを怠りません
- 災害のとき 最も頼りになるご近所との繋がりを大切にします
- 災害のとき みんなで助け合う町内の防災活動に協力します
- 災害に備え 助け合いの環境づくりを応援します